

パブリックコメント オンライン広聴のレポート



意見募集の概要・実施結果

- 調査方法：デジタルツール「PoliPoli Gov」を用いたインターネットリサーチ
- 意見募集のテーマ
 - 富山県庁周辺がどんな場所になっていたらうれしいですか？
- 調査期間：2025/11/14～2025/12/14（31日間）
- 調査地域：全国オンライン
- ページ閲覧数：1,133PV
- 総コメントユーザー数：179人（*ユーザーIDの重複を削除した値より、ユニークユーザー(UU)数を算出）
- 総コメント投稿数：194件（*コメント公開基準に抵触する非公開コメントを除外した値を算出）
 - ※総コメントユーザー数5件・投稿数8件に、属性非回答のエラーがあり計上からは除外
- 回答者の属性（必須回答）：
 - ①あなたの在住・在勤・在学の場所
 - ②通勤・通学・主な活動拠点
 - ③あなたの年代
 - ④あなたの性別
 - ⑤関心ごと

意見募集の仕組み

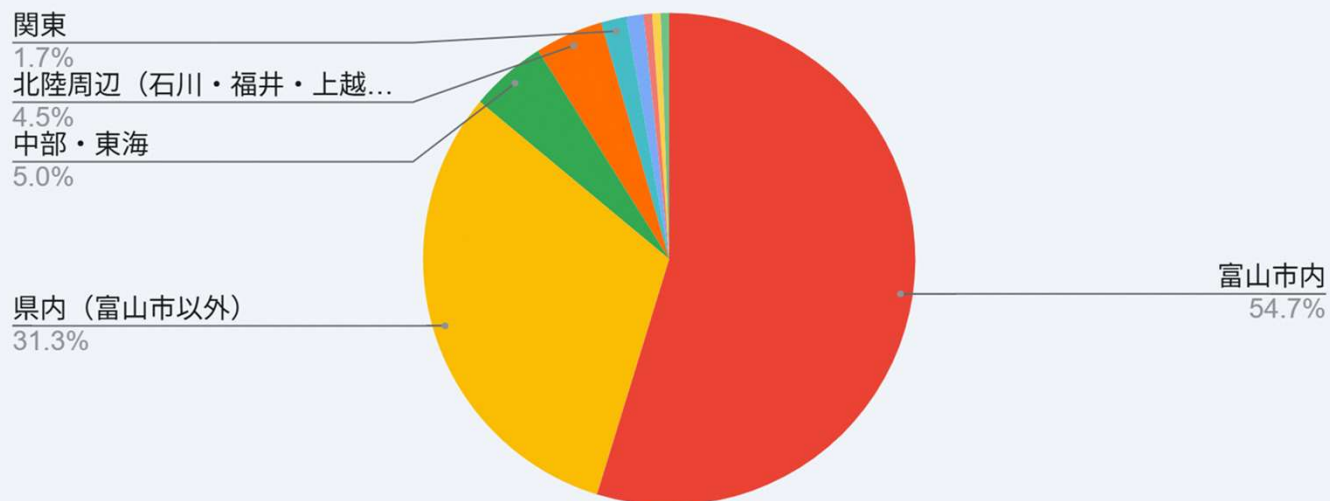


※プラットフォーム内のコミュニティを健全に保つため、投稿されたコメントが攻撃的な内容や広告目的と判断された場合に、運営側でコメントを非公開としています。

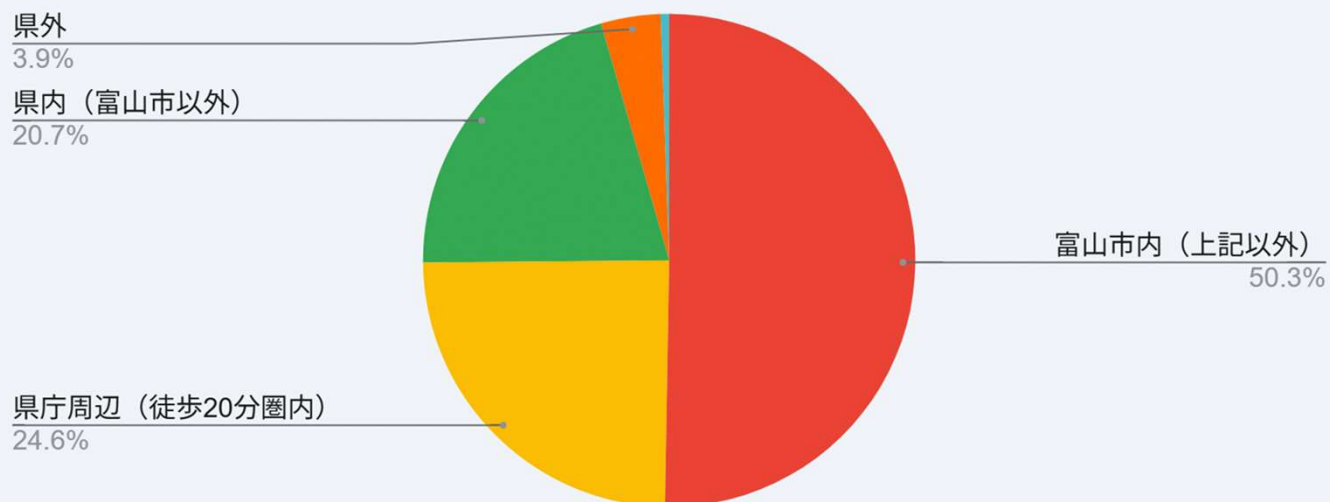


意見募集の概要・実施結果 | 全コメントにおけるユーザー属性

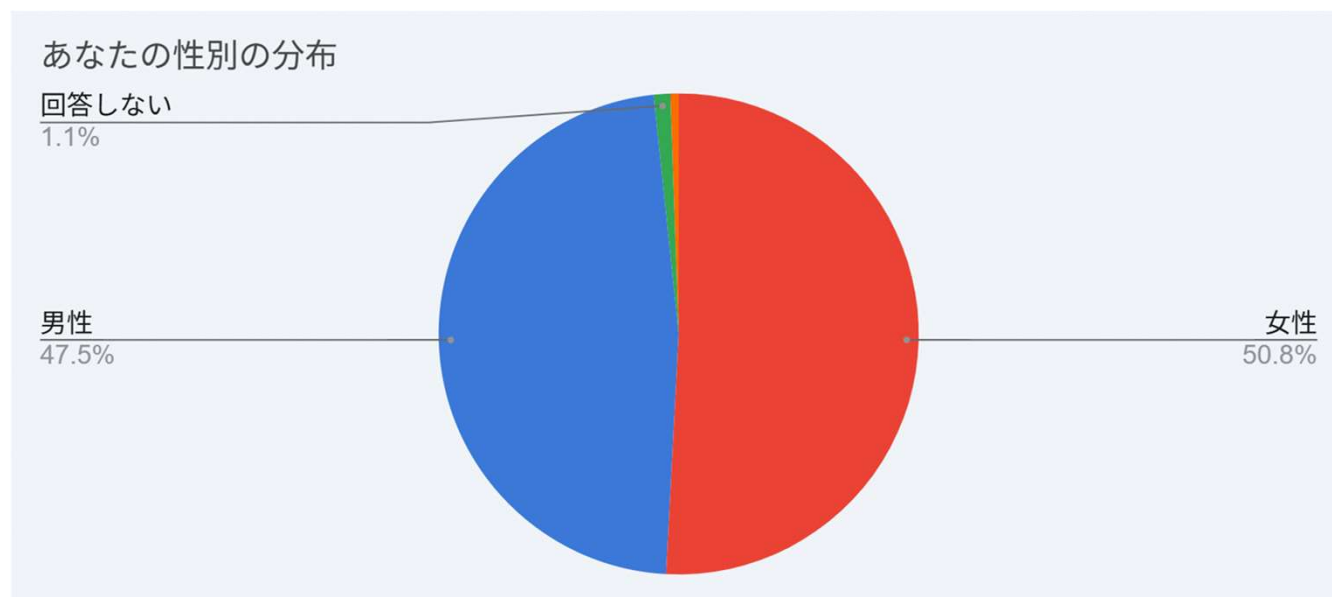
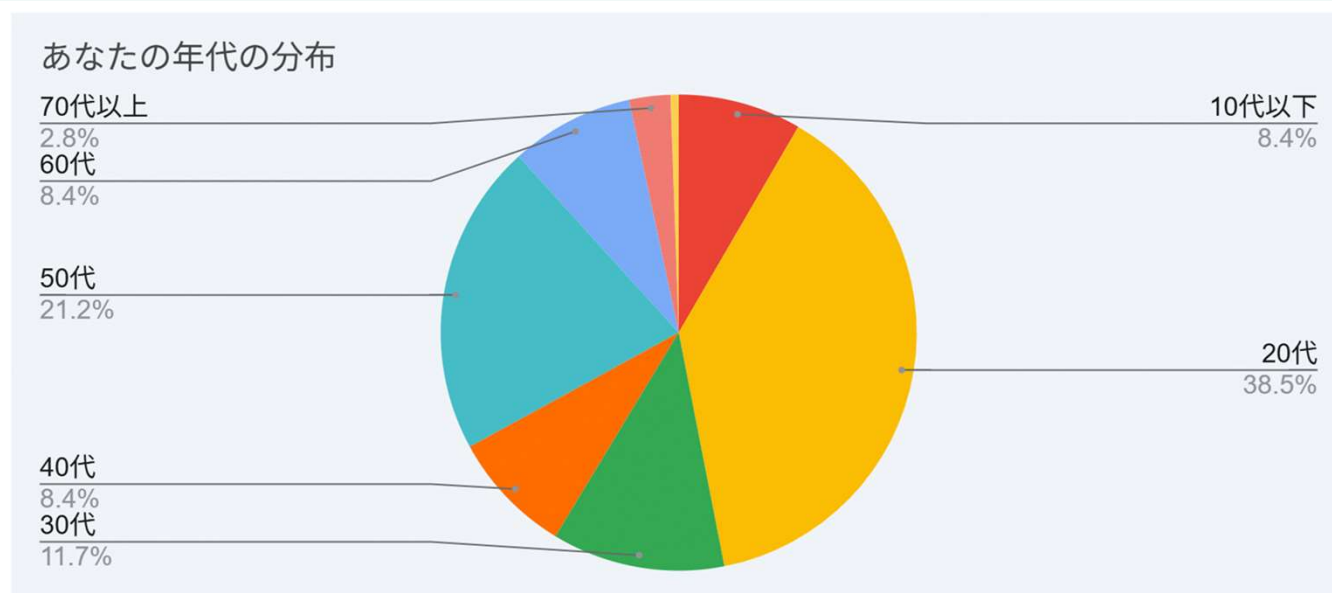
あなたの在住・在勤・在学の場所



通勤・通学・主な活動拠点の分布



意見募集の概要・実施結果 | 全コメントにおけるユーザー属性



意見募集の概要・実施結果 | 全コメントにおけるユーザー属性

関心ごとの分布

地域・社会活動

5.0%

産業・仕事・ビジネス

9.5%

歴史・芸術・文化

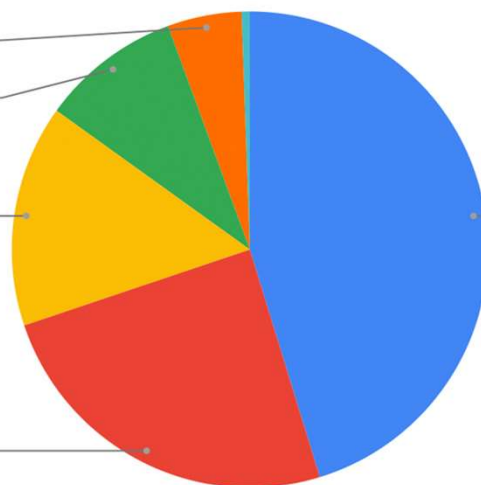
15.1%

教育・子育て・福祉

24.6%

観光・交流・イベント・スポーツ

45.3%



県庁周辺での過ごし方

写真・映像を撮る

2.8%

学び・研究・作業（電源/Wi-Fi）

3.4%

ビジネス・官民交流

6.2%

休憩・待ち合わせ

7.9%

子どもと遊ぶ・家族で過ごす

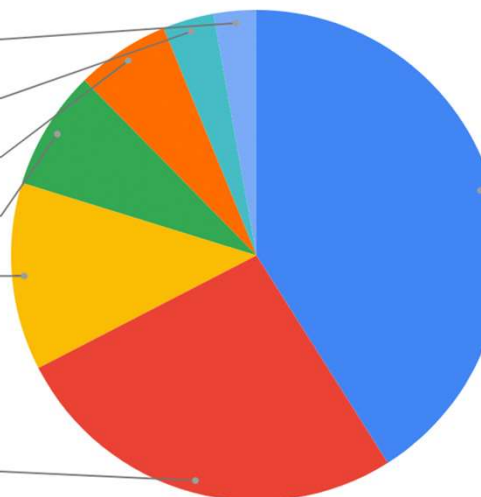
12.4%

散歩・水辺を歩く・おしゃべり

41.0%

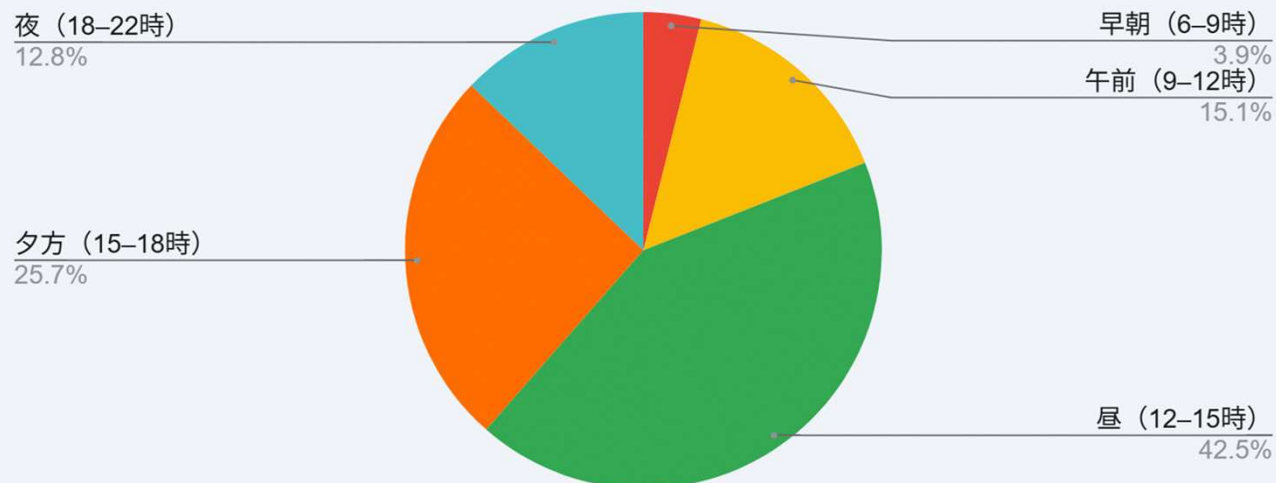
イベントを楽しむ（観覧/参加）

26.4%

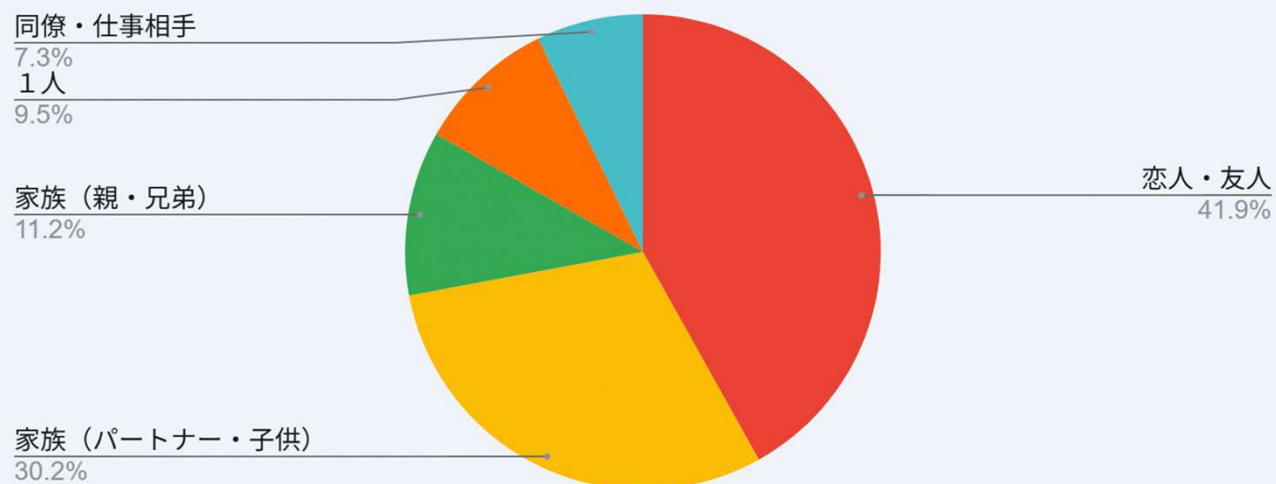


意見募集の概要・実施結果 | 全コメントにおけるユーザー属性

県庁周辺での過ごし方の希望時間帯



県庁周辺を過ごしたい相手の分布



カテゴリ

全件のコメントを下記5つのカテゴリに分類しました（その他、分類不可を除外）

- 【滞在・交流】全天候型の「賑わいと遊び」の拠点化
- 【環境・景観】「開かれた県庁」への視覚的・物理的アプローチ
- 【サードプレイス】学習・ワーク・休息のための「自由な居場所」
- 【歴史・文化】ヘリテージ（遺産）の活用と観光資源化
- 【アクセス・回遊】「行きたくなる」ためのインフラ整備

カテゴリ詳細

全件のコメントを下記5つのカテゴリに分類しました

カテゴリ	コメント概要
【滞在・交流】全天候型の「賑わいと遊び」の拠点化	キーワード: 全天候型、カフェ・飲食、子どもの遊び場、NHK跡地、イベント 概要: 富山の気候（雨・雪）を考慮し、天候に左右されずに過ごせる「屋根付きの居場所」や、家族連れが滞在できる遊び場の整備を求める声です。民間活力を導入したカフェの設置や、NHK跡地でのマルシェ開催など、行政機能を超えた日常的な賑わい拠点の創出を期待しています。 政策の示唆: 単なる広場整備ではなく、飲食・滞在機能を持たせた「屋根のある空間」への転換が必須です。Park-PFI等の手法を用いた民間施設の誘致や、公園と一体となったエリア形成が考えられます。
【環境・景観】「開かれた県庁」への視覚的・物理的アプローチ	キーワード: 植栽剪定、ライトアップ、松川・水辺、開放感、防犯・衛生 概要: 庁舎を隠す樹木の剪定や夜間照明により、暗い・閉鎖的な印象の払拭を求めています。松川や城址公園との物理的・視覚的な接続を強化し、トイレの美化や明るさ確保など、誰もが入りやすく、安心して歩ける環境デザインへの要望が顕著です。 政策の示唆: 建物の魅力を可視化する景観計画と、水辺エリアとの一体的なゾーニング変更により、県庁への心理的な障壁を取り除く必要があります。

カテゴリ詳細

全件のコメントを下記5つのカテゴリに分類しました

カテゴリ	コメント概要
【アクセス・回遊】「行きたくなる」ためのインフラ整備	キーワード: 駐車場（地下・無料）、ウォーカブル、駅・総曲輪との接続、地下通路、回遊動線 概要: 富山駅と総曲輪の中間という立地を活かすため、アクセス障壁を取り除くインフラ整備を求める意見です。特に、来訪の最大のハードルとなっている駐車場の不足（地下化や無料化）の解消や、駅から歩くこと自体が楽しくなる道づくりなど、点だけでなく線としての魅力向上が求められています。 政策の示唆: 駐車場問題の解決は、集客の必須条件です。また、ストリートの魅力を高めるウォーカブルな街づくりにより、富山駅周辺の賑わいを総曲輪エリアへ波及させる結節点としての役割が期待されます。
【サードプレイス】学習・ワーク・休息のための「自由な居場所」	キーワード: 自習室・学習、コワーキング、ベンチ・休憩、Wi-Fi、学生・若者 概要: 商業施設や自宅とは異なり、誰もが無料または安価で自由に利用できる「公共の居場所」としての機能強化を求める意見です。学生が夜まで学べる自習スペースや、ビジネスマンの作業環境、登録なしで気軽に座れるベンチなど、「用事がなくても立ち寄れる余白」の創出が求められています。 政策の示唆: 「学生」と「社会人」が共存する知的交流拠点の整備が必要です。目的を持たない来訪者も受け入れるフリースペースを確保することで、日常的な利用率を向上させます。

カテゴリ詳細

全件のコメントを下記5つのカテゴリに分類しました

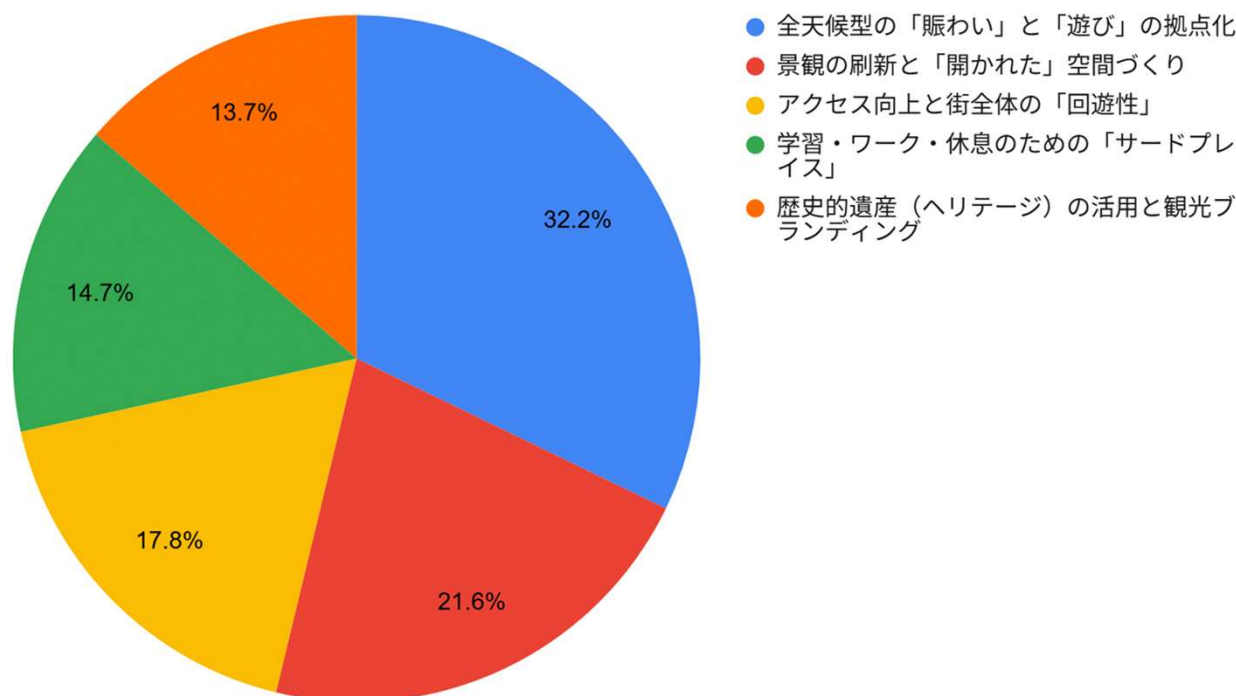
カテゴリ	コメント概要
【歴史・文化】ヘリテージ（遺産）の活用と観光資源化	キーワード: 本館活用、博物館・美術館、屋上開放、シビックプライド、復興の歴史 概要: 90年の歴史を持つ本館建物や旧神通川の記憶を地域資源と捉え、県内外の人を惹きつけるコンテンツとして活用してほしいという意見です。内部や屋上の常時開放、ホテルやミュージアム化など、文化財を「保存」するだけでなく、現代的な価値を付加して「活用」することを期待しています。 政策の示唆: 「見るだけの文化財」から「使える文化財」への転換が求められます。本館を県のシンボルとして再定義し、観光や文化発信のハブとして機能させるブランディングが有効と考えられます。

カテゴリ詳細

カテゴリ別のコメント傾向では、「全天候型の『賑わい』と『遊び』の拠点化」が32.2%で最多となり、次いで「景観の刷新」が21.6%を占めました。この2項目で全体の過半数を超えることから、富山特有の気候でも快適に過ごせる「屋根付きの滞在空間」と、庁舎周辺の閉鎖的な雰囲気解消する「開かれた環境」への要望が極めて強いことが分かります。

一方、アクセス、サードプレイス、歴史活用も13~17%台で推移しており、多様な機能への期待も伺えます。政策としては、まず天候や心理的な障壁を取り除くハード整備を優先し、日常的に人が集まる土台を作ることが活性化に繋がるものと考えられます。

カテゴリ別コメント傾向



クロス分析と考察

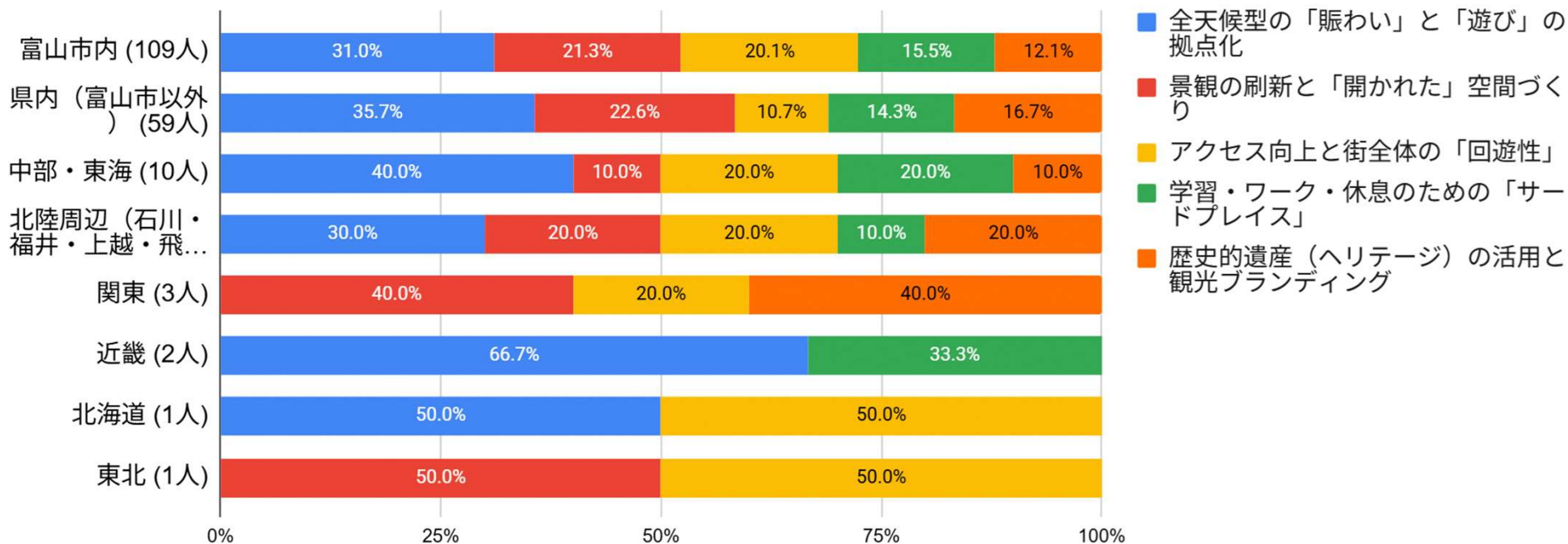
①あなたの在住・在勤・在学の場所 × カテゴリ のクロス集計

居住地に関わらず「全天候型の賑わい・遊び」が最多要望であり、特に富山市外の県内在住者で35.7%と高く、わざわざ訪れる動機としての重要性が伺えます。

一方、特徴的な差異として「アクセス・回遊性」への関心は、富山市内在住者（20.1%）が市外在住者（10.7%）を大きく上回りました。市内層は日常的な街歩きや移動の快適さを重視していると考えられます。

広域集客のフックとして「屋根付き遊び場」等の拠点を整備しつつ、地元層の利用定着に向けては、周辺エリアをつなぐ「回遊環境の改善」をセットで進めることも重要と考えられます。

①あなたの在住・在勤・在学の場所 × クロス集計



②通勤・通学・主な活動拠点×カテゴリのクロス集計

県庁周辺（徒歩20分圏内）を拠点とする層では、「景観の刷新」への要望が30.9%と他層に比べ突出して高い点の特徴です。日常的に目にする場所だからこそ、暗さや閉鎖感を解消し、快適な生活環境を求めていることが表れています。

対照的に、富山市内（周辺外）や県内層は、「全天候型の賑わい」が35%を超え、訪問の動機となる具体的コンテンツを重視しています。

②通勤・通学・主な活動拠点×クロス集計

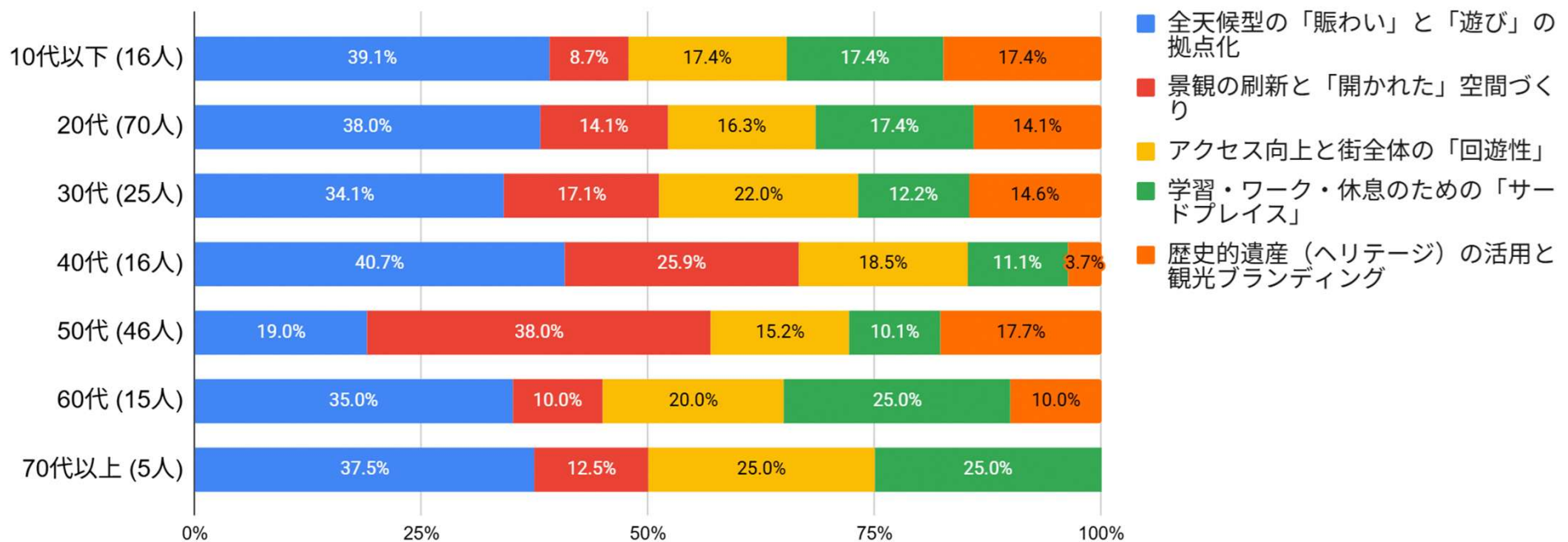


③あなたの年代 × カテゴリ のクロス集計

年代別に見ると、10代から40代までは「全天候型の賑わい・遊び」が約4割を占めます。子育て世代や学生層は、天候に関わらず活動できる具体的な機能を強く求めています。一方で50代では、「景観の刷新」が38.0%で最多となり、機能よりも落ち着きや美観を重視する姿勢が鮮明です。

世代間ニーズの違いを踏まえると、単なる施設建設では中高年層の支持を得にくく、景観整備だけでは若年層を誘引できません。豊かな植栽や照明等で「質の高い景観」を整えた上で、そこに若者が求める「全天候型の交流機能」を違和感なく組み込む、世代で調和が取れるとも言えます。

③あなたの年代 × のクロス集計



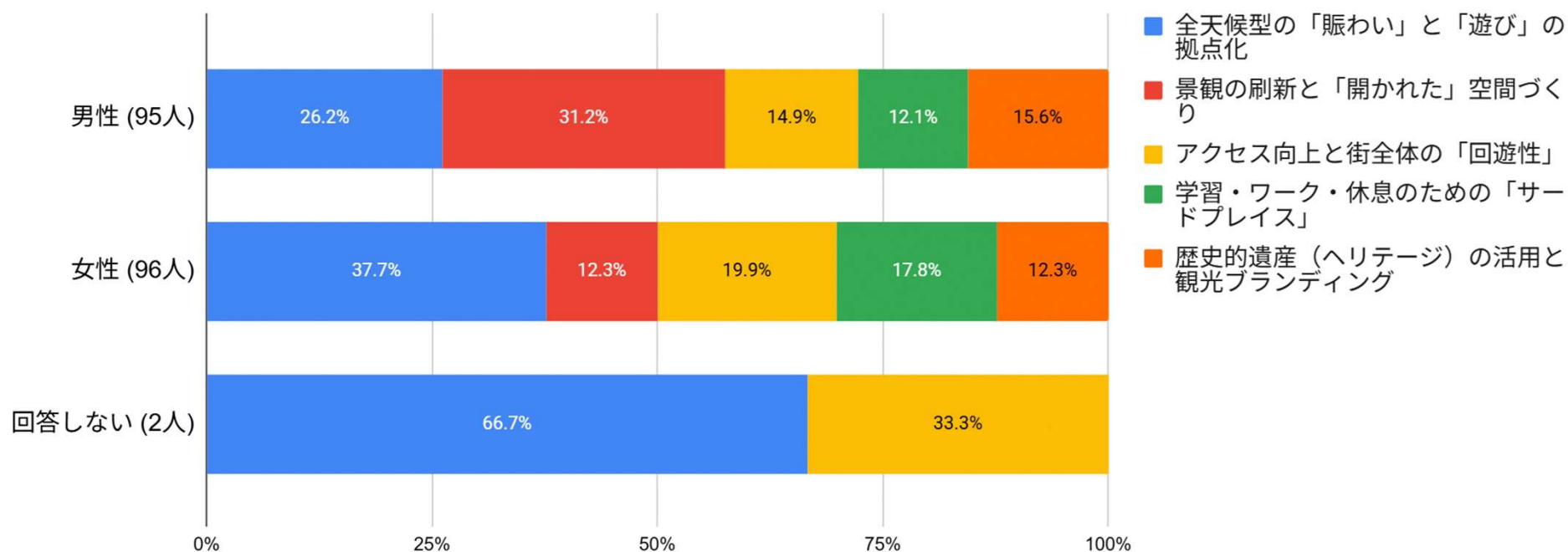
④あなたの性別× カテゴリ のクロス集計

男性は「景観の刷新」が31.2%で最多となり、建物の見え方や開放感といった環境の質（ハード）を重視する傾向があります。

対照的に、女性は「全天候型の賑わい」が37.7%と突出しており、カフェや遊び場など、そこで何ができるかという機能や快適性（ソフト）を強く求めています。

また、女性はアクセスやサードプレイスへの関心も比較的高いことから、日常的な使い勝手が重要視されています。

④あなたの性別×のクロス集計

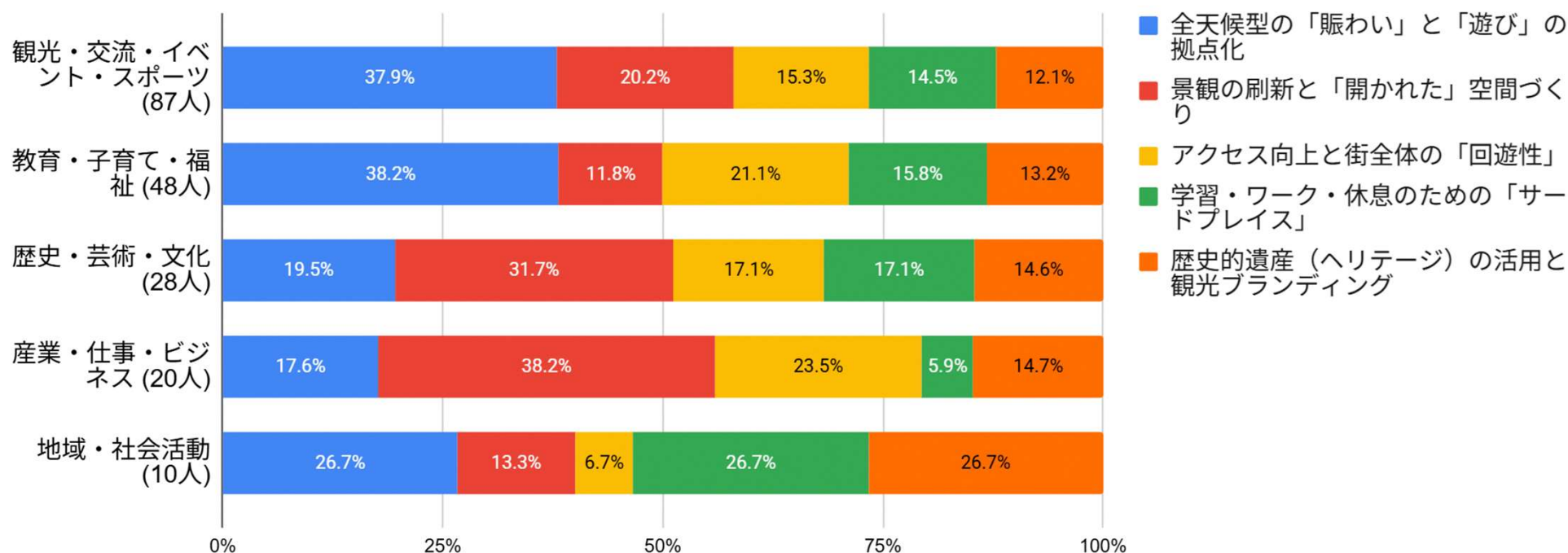


⑤関心ごと × カテゴリ のクロス集計

「観光・イベント」層と「教育・子育て」層では、共に約38%が「全天候型の賑わい」を希望しており、観光振興と子育て支援策が「屋根付きの交流拠点整備」という共通の施策で実現可能であることを示唆しています。

対照的に、「ビジネス」層や「歴史・文化」層は「景観の刷新」を最も重視しています。特にビジネス層は「アクセス」への関心も高く、機能性と環境の質を求めています。

⑤関心ごと × のクロス集計



県庁周辺にてどのような過ごし方をされたいですか？

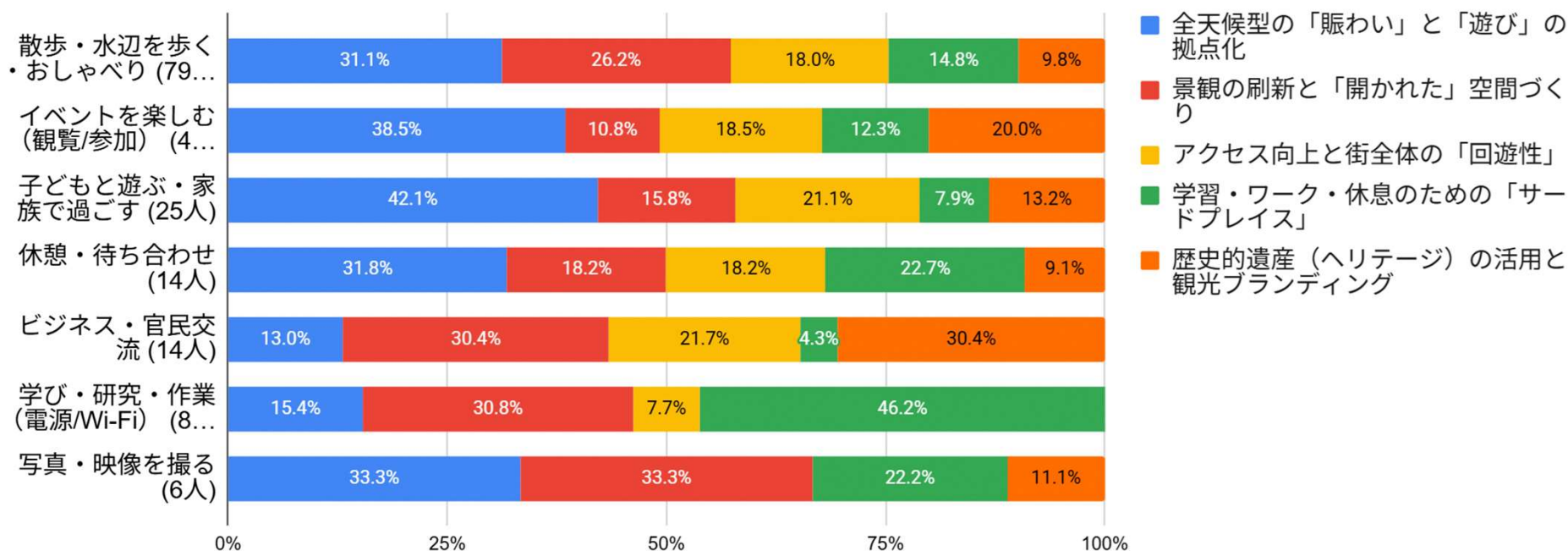
× カテゴリ のクロス集計

利用目的と求める環境の相関が出ていますと考えられます。

「子どもと遊ぶ」層は「全天候型の賑わい（42.1%）」、「学び・作業」層は「サードプレイス（46.2%）」と、活動を支える直接的な機能を求めています。

対照的に、「ビジネス・官民交流」層は賑わいを求めず、「景観（30.4%）」と「歴史・文化（30.4%）」を同等に重視しており、ビジネスの場としての静けさや品格、富山らしいアイデンティティを求めている点が特徴的です。

① 県庁周辺にてどのような過ごし方をされたいですか？ × のクロス集計



どのような時間帯ですか？ × カテゴリ のクロス集計

時間帯により求める要素が明確に変化しています。

早朝（46.7%）と夜（26.3%）は「景観の刷新」への要望が高く、散策時の清々しさや夜間の安全性、ライトアップ等の雰囲気重視されています。

対して、昼間（12-15時）は「全天候型の賑わい」が35.3%でピークとなり、ランチや遊びなど日中の活動機能が求められています。

また、夕方は「サードプレイス」への関心が高まり、放課後の学生や帰宅前の休息需要が見て取れます。これらを踏まえ、日中は賑わいを生む機能を提供しつつ、朝夜は美しい景観と照明で安らぎを演出するなど、時間帯で表情を変えるエリアマネジメントが、一日を通じた回遊性向上に重要と考えられます。

② ①は、どのような時間帯ですか？ × のクロス集計



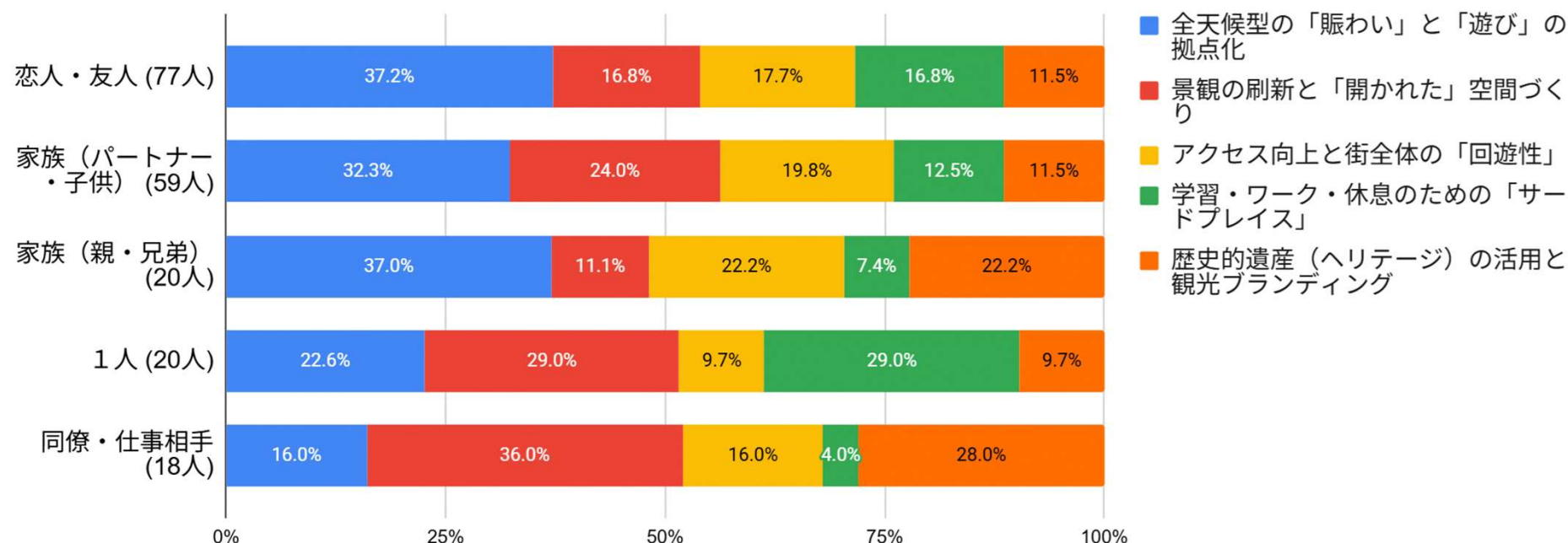
だれと過ごしたいですか？ × カテゴリ のクロス集計

プライベートな関係（家族・恋人）では「全天候型の賑わい」が最多で、共に楽しめる機能を重視しています。特に「親・兄弟」連れでは「歴史的遺産（22.2%）」への関心が高く、世代を超えた会話の種として歴史要素が有効です。

一方、「同僚・仕事相手」の場合は「景観（36.0%）」と「歴史（28.0%）」が過半数を占め、ビジネスの場にふさわしい品格や環境美を求めています。

また、「1人」の場合は「サードプレイス」と「景観」が共に29.0%で並び、個人の居心地を最優先しています。

③ だれと過ごしたいですか？ × のクロス集計



20代以下の女性のクロス分析

20代以下女性は「全天候型の賑わい」が39.0%と全属性中で最も高く、具体的な「遊び・滞在機能」を求めていると確認できます。対照的に「景観」への関心は9.8%と極めて低く、男性（31.2%）との意識差が鮮明です。また、勉強や休憩目的の「サードプレイス（18.3%）」の需要が比較的高いのも特徴です。

将来世代である彼女たちにとって、単に景色を整えるだけでは来訪動機にならないという考えもできます。天候に左右されないカフェや屋内広場、自習スペースなど、「そこで何ができるか（コト消費）」を明確に提供するソフト重視の環境整備が重要とも考えられます。

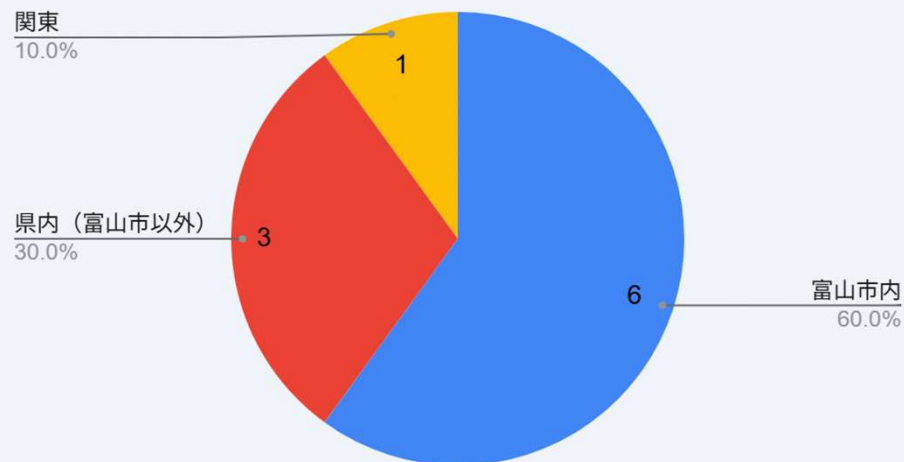
20代以下の女性のクロス分析



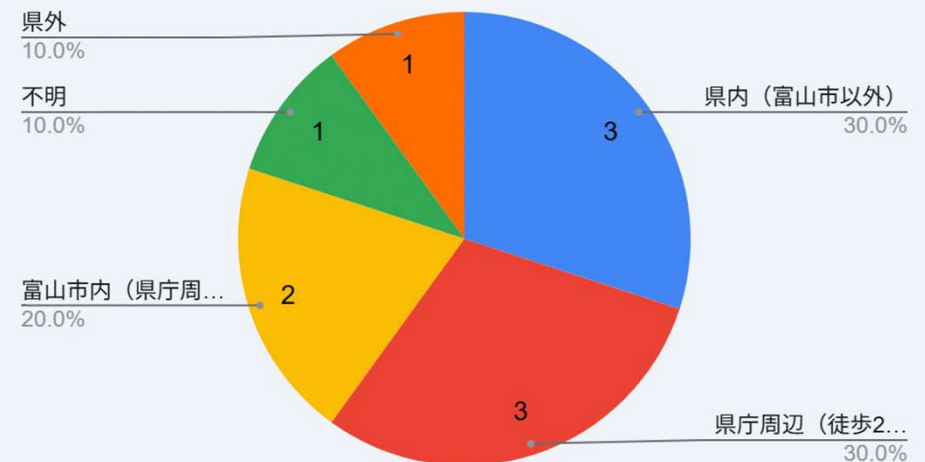
パブリックコメント との接続

(参考) 回答属性

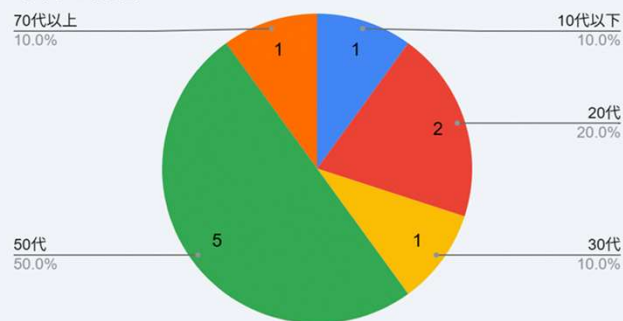
在住・在勤・在学の場所の割合



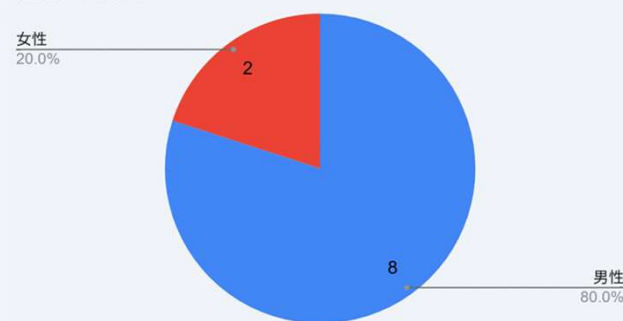
通勤・通学・主な活動拠点の割合



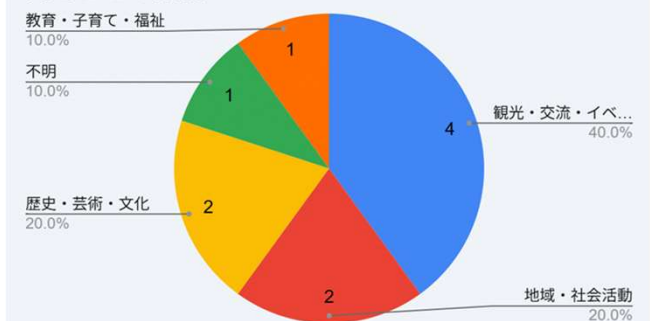
年代の割合



性別の割合



関心ごとの割合



パブリックコメントの分析とアンケート結果との接続

アンケートが「～したい」「～が欲しい」という要望中心だったのに対し、パブリックコメントでは他県の事例や具体的な手法（地下通路、アーケード、大学誘致、防災機能）を用いたソリューション（解決策）の提案が目立ちます。

●PoliPoliGovにおいてカテゴライズした項目との接続

【滞在・交流】賑わいの持続性への懸念と提案

- 傾向: 商業施設や食堂の設置を求めつつも、「店を作れば人が来るわけではない（No.8）」「民間は採算が合わなければ撤退する（No.2）」といった冷静な視点が提示されています。
- 接続: アンケートで要望の多かった「カフェ・商業施設」に対し、単なる誘致ではなく、「大学キャンパスの誘致（No.8）」や「都庁のような開放型食堂（No.6）」など、日常的に人が集まる必然性のある機能（アンカーテナント）を組み込むべきという示唆が得られました。

【環境・景観】「アーバンフォレスト」と防災視点

- 傾向: 緑を単なる飾りではなく、涼しさや防災機能を持つ「アーバンフォレスト」「スポンジシティ」として整備すべき（No.9）、松川の水質改善（No.1）といった、環境インフラとしての質を問う意見がありました。
- 接続: アンケートの「景観の刷新」ニーズを、単なる見た目の改善から、「環境・防災先進都市モデル」としての付加価値向上へと昇華させる視点です。

【歴史・文化】「使う」ための大胆な機能転換

- 傾向: 本館を残しつつも、「日常的に活用しないと賑わいは生まれない」として、デザインセンターや博物館、大学機能の移転など、用途の大胆な変更が提案されています。
- 接続: 見るだけの保存ではなく、「県政機能の集約・再編（No.8）」とセットでのリノベーションが有効との示唆です。

【アクセス・回遊】全天候型インフラの具体化

- 傾向: 「地下通路」や「アーケード」の設置（No.3）により、雪雨対策と回遊性を確保すべきという強い要望があります。
- 接続: アンケートで最多だった「全天候型の賑わい」を実現するインフラとして、富山駅から総曲輪を繋ぐ「濡れない動線」の確保が、エリア全体の活性化に直結する必須条件であることが再確認されました。

カテゴリごとの 代表的なコメント

全天候型の「賑わい」と「遊び」の拠点化

富山市内（上記以外） 30代 女性

雨が多い富山でも外で思いっきり遊べるような全天候型の施設がほしいです！
夏も暑いから屋根あるといいな！

県内（富山市以外） 30代 男性

NHKの跡地で開催されたオクトーバーフェストは非常に楽しいイベントだった。このようなイベントやマルシェのようなものをNHKの跡地で開催すれば、より県庁周辺が活気づくと思う。富山県には小さいながらも魅力的な創作活動をしている人がたくさんいるので、その人たちの活躍の場を最も受けるべきである。大手市を見ていると、たくさんの人が交流しあう場になっているので、そのようなイベントを駅北から富山駅、県庁周辺、総曲輪にかけて連携してやっていくといいと感じる。

県内（富山市以外） 60代 女性

この間高知に遊びにいきました。駅近のホテルに泊まったのですが、歩いてアーケード街に行くといろんな飲食店が営業しており、歩きながら選ぶのが楽しかったです。有名なひろめ市場は、大勢の人で賑わっていました。（中略）

寿司といえば富山。と打ち出していますが、富山の寿司も、雑然とした中で、いろんな店から好きなお寿司を買ってきて、いろんな人と相席をしながら食べるスポットを作り、観光の目玉にしてはどうかと思いました。

景観の刷新と「開かれた」空間づくり

県庁周辺（徒歩20分圏内） 50代 男性

普通、県庁って聞くと、「ドーン！」って感じで、すごく立派で目立つイメージがありますよね。

でも、富山県庁は、なんだかちょっとわかりにくいってというか、目立たない気がするんです。たぶん、一番の原因は、正面に並んで植えてある木々（並木）だと思います。あの木が邪魔をして、せっかくの県庁の建物がほとんど見えないんです！（中略）

路面電車に乗っている時も、「あ、ここが県庁だ！」って一目でわかるようにしたら、もっと素敵になると思います。

富山市内（上記以外） 40代 男性

暗い、人が寄りたいと感じる照度が確保されているだろうか。入口も少なく、なぜ生け垣や柵で囲われているのか。段差が多い、なぜ周辺の歩道は車道から高くなっているのか。交差点ごとにスロープがあり、縁石の段差でガッタンとなるところにベビーカーを押したり、スーツケースを引っ張りたいと思うだろうか？これらを解消することが必要ではないか？

県庁周辺（徒歩20分圏内） 50代 男性

県庁周辺エリアは、清潔で、明るく、美しい場所になってほしい。特に、城址公園の北側の松川沿いのエリアの改善が必要。カラス捕獲檻を隠す木の塀ができたのはとてもよかったが、そもそも捕獲檻はあの場所がない方がよい。

夜は薄暗く、時計も時間がずれていたり、ベンチも汚れていて座れない。佐藤記念美術館は外観をもっと明るい感じにして、川側に入口があって、そこから館内を通り抜けて城址公園の日本庭園に行けるとよい。

アクセス向上と街全体の「回遊性」

県内（富山市以外） 30代 男性

富山駅を出て、県庁までの道がつまらない。一直線（最短ルート）で行こうと思うと、CICの中を抜け、そのまま雑居ビルの間を通り、県庁前公園の中を通って来る。非常にイマイチである。（中略）
多くの観光客が写真を撮りたいと思えるような、そんな通りになったら、通勤も楽しくなると思う。

県庁周辺（徒歩20分圏内） 50代 男性

城址大通りはバスの幹線道路となっており、バスが通るたびに騒音が大きいなと感じています。（中略）

富山駅のバスターミナルから、中央分離帯の下に作った地下のバス専用道路を通して、総曲輪まで行けるようにしたら、騒音が減り、快適な道路になると思います。バスレーンが不要になりますので、バスレーンまで歩道を広げ、ベンチを置いたり、噴水を作ったり、遊び場を作ったり、オープンカフェを作ったりすれば楽しくなるのではないのでしょうか。

富山市内（上記以外） 20代 女性

カフェやパン屋さんなどを作り、近くの公園で食べながらピクニックを楽しめる場所だと嬉しいです。近くに無料駐車場がないので、行きづらいです。

学習・ワーク・休息のための「サードプレイス」

県庁周辺（徒歩20分圏内） 10代以下 女性

勉強したいのに自習できる場所が少なく困っています。県庁周辺は落ち着いた雰囲気があり作業に向いていると思うのでぜひ一般に開放してくださると嬉しいです。

県庁周辺（徒歩20分圏内） 30代 男性

余白というか隙間というか、空間の遊びが富山のまちなかにはないように感じます。

誰かの意図にあわせなくても、一人ひとりが本当の意味で自由になれる空間づくりをお願いします。

県庁周辺（徒歩20分圏内） 50代 男性

ひとりの時間を取って、落ち着いて過ごせる（仕事の施策、瞑想等にふけることのできる）空間があるといいです。（中略）

イメージとしては、毎日来ても飽きず（一人でも快適で）、初めて訪れても驚きがある（観光、ビジネス交渉の場になる）ところです。

歴史的遺産（ヘリテージ）の活用と観光ブランディング

富山市内（上記以外） 50代 男性

以前、県庁前公園のところに、新しい県庁を建てて、今の県庁は迎賓館にしてはどうか、という意見があったと思います。金沢市に、旧石川県庁本館を生かした「しいのき迎賓館」がありますね。それも一つの方法かなと思いました。

県庁周辺（徒歩20分圏内） 50代 女性

県庁舎本館には、富山大空襲の写真や資料がいつでも見られるスペースと、座って語り合えるエリア「灯りサロン」（復興の歴史を学び、これからの県民の未来が暖かく光るように、との願いを込めたエリア）があるとうれしい。（中略）
県民パスを持つ人は、顔認証で出入り自由。

県庁周辺（徒歩20分圏内） 50代 男性

歴史背景（城址公園、旧神通川の歴史、文化、食）の立地を活かした賑わい拠点の創出を。
県庁周辺エリアの活性化を検討する上で、松川を中心に南の富山城址公園北側区域と北の県庁周辺エリアを一体的に検討すべき。（中略）
防災危機管理センタービルは県庁本館機能とともに別の場所に移転が望ましい。

全体考察

全体考察

本調査（PoliPoli Gov）およびパブリックコメントから得られた約200件の声を統合・分析した結果、富山県庁周辺エリアには、単なる「行政施設の改修」ではなく、都市機能としての役割の再定義が求められていることが確認できました。

県民が求めているのは、「近寄りがたいオフィス街」から、天候や目的に関わらず誰もが受け入れられる「屋根のある公園」への転換という志向が強く出た傾向です。

①属性別クロス分析から見る「ターゲット別アプローチ」

傾向としては「全天候型の賑わい」と「景観の刷新」が二大要望ですが、属性ごとのニーズには明確な「二極化」が見られます。政策立案においては、このギャップを埋める、あるいは共存させるゾーニングが必要とも考えます。

【若年層・女性・子育て層】＝「機能（ソフト）」重視

傾向: 20代以下女性の約4割が「全天候型の賑わい・遊び」を要望しており、「景観」への関心は低い傾向にあります。

示唆: 若い世代に対しては、景色を整えるだけでは来訪動機になりません。「雨でも遊べる」「カフェで過ごせる」といった具体的な「コト消費」ができる屋内拠点の整備が、将来世代を呼び込む必要があります。

【中高年層・男性・ビジネス層】＝「環境（ハード）」重視

傾向: 50代以上や男性層は、「景観の刷新」や「歴史・文化」への関心が高く、落ち着きや品格を求めています。

示唆: 賑わい施設を作る際も、歴史的建築物（本館）との調和や、静寂な散策路の確保など、「大人の鑑賞に堪えうる空間設計」が求められているとも考えられます。

【市外・県外在住者】＝「目的地」としての魅力

傾向: わざわざ足を運ぶための「強力なフック（全天候型施設）」を求めています。

【富山市内（周辺）在住者】＝「日常の快適性」

傾向: 日々の生活動線としての「回遊性」や「明るさ・防犯」を重視しています。

政策への提言

県民の声とコンセプトブックの統合による「県庁周辺エリア」の戦略

『県庁周辺エリアコンセプトブック』で示されたビジョンおよび「5つのアクション」は、アンケートで寄せられた県民の期待と方向性において合致しています。しかし、県民の声はより「気候への切実な対策（全天候）」や「具体的な利用機能（コト消費）」に集中しています。

【アクション01・05】ウォーカブル・回遊性の強化

県民の声：「全天候型ウォーカブル」

提言：

- ①「濡れない動線」の確保__地下通路の活用、アーケードの整備、屋根付きのモビリティ導入検討
- ②駐車場のスマート化__パブリックコメントで指摘されたような、エリア内駐車場を集約化を検討し、地上を歩行者空間化する。

【アクション02】緑のオープンスペース創出

県民の声：「屋根付き公園（アーバン・リビング）」と「視認性」

提言：

- ①屋根の設置__アイデアコンペでも提案があったように、広場の一部にはデザイン性の高い大屋根を設け、雨天時でもマルシェや子供の遊びが継続できる構想。
- ②「見せる」緑化__視線を遮る高木は剪定・整理し、県庁本館が美しく見える「抜け感」の創造。防犯性を高めるための照明計画もセットで行う。

政策への提言

【アクション03】松川べりの魅力向上

県民の声：「グリーンインフラ」としての質的向上

提言：

・商業機能の接続__アンケートで要望が多かった「川床」や「テラスカフェ」を実現するため、河川敷地占用の規制緩和特区を積極的に活用。

【アクション04】県庁舎本館の活用

県民の声：「恒常的な人流を生むアンカーテナント」の誘致

提言：

①日常機能の導入__観光客向けのギャラリーだけでなく、県民が毎日通う理由となる「大学サテライトキャンパス」「コワーキングスペース」「学習図書館」「開放型食堂」入居の検討。

②歴史の継承__パブリックコメントにあった「復興の歴史」や「空襲資料」の展示機能を併設検討。

コンセプトブックの「VI. 未来に向けて」にあるロードマップを確実に実行するための視点として、ゾーニングの検討も必要と考えます。

ターゲット別ゾーニング（属性クロス分析より）

①北側（駅寄り・NHK跡地周辺）__若年層・ファミリー向け。「全天候型の賑わい・遊び」に特化し、多少の騒音も許容するアクティブゾーン。

②南側（本館・城址公園周辺）__中高年・ビジネス層向け。「景観・歴史」を重視し、静寂と品格を守るリラックスゾーン。

このようにエリア内で性格を分けることで、世代間のニーズを踏まえることも可能と考えます。